

韓国 現代詩選

茨木のり子訳編

花神社

韓国現代詩選

茨木のり子訳編

花神社

* 韓国現代詩選
かんこくげんだいしせん

初版第一刷——一九九〇年十一月十日

訳編者——茨木のり子
いばのき

装幀——熊谷博人

発行者——大久保憲一

発行所——株式会社 花神社
かしん

東京都千代田区猿樂町二——二五

興新ビル六〇五 電話 東京（二九）六五六九

印刷所——信毎書籍印刷

製本所——松栄堂

用紙布——文化エージェント

©一九九〇年 Printed in Japan

ISBN4-7602-1108-X C0092

韓國現代詩選

*

目次

姜恩喬 カンウンギョ

林 一二

眼 一四

つつじ 一六

芥子粒のうた 一八

* 姜恩喬について 一九

金芝河 キムジハ

夏の牢獄にて 二二

詩 二四

綱わたり 二六

草にも南北があるか 二九

僕らが やろう 三一

* 金芝河について 三五

チヨウビヨンフア
趙炳華

手紙	四〇
啓蟄のころ	四〇
無限	四一
海	四二
時間はおつばらその席に	四三
ヴェロナのランプ	四三
戦争時代	四四
たそがれ——わたしの自画像	四六
女人	四六
共存の理由 12	四八
烏山駅を過ぎるたびに	五一
別れる練習をしながら	五三
* 趙炳華について	五五

洪允淑^{ホン・ユン・ス}

人を探しています……………六〇

わたしの風は……………六二

夕陽によこたわり……………六四

装飾論……………六七

生きる法……………七〇

海——海の言葉……………七二

* 洪允淑について……………七五

李海仁^{イ・ヘ・イン}

修道女……………八〇

海鳥……………八二

洗濯……………八四

ちびた鉛筆……………八六

誰かがわたしのなかで 八七

恋 八九

* 李海仁について 九二

申庚林^{シンギョリン}

山中 九六

柿の木 九八

南漢江の漁夫——清風にて 一〇〇

故郷の道 一〇二

月を越えよう——流れものうた 一〇四

* 申庚林について 一〇七

河鐘五^{ハジョンオ}

屋台 一二二

ミドリマチ 一二四

餌の鎖 一七

忘憂里で暮しながら 一八

* 河鐘五について 二一

フアンミョンゴル
黄明杰

銀の箸と匙 二六

朝鮮の処女 二八

三寒四温人生 三一

焼酎のように冷たく熱く 三三

* 黄明杰について 三七

キムヨシヨン
金汝貞

水鶏のことば 四〇

りんごの木の下で 四二

積雪 四四

いのちの芯……………一四七

* 金汝貞について……………一四八

フランドン
黄東奎ギユ

外地にて……………一五二

僕は　なんだろう……………一五三

熱い腹を手すりに凭せかけ……………一五五

小形百濟佛像……………一五七

* 黄東奎について……………一六〇

オ
呉圭原ギユウオン

フランツ・カフカ——メニユー……………一六四

突然　間違つて生きているという思いが……………一六五

わが頭のなかにまで忍び込んできた泥棒……………一六七

童話のことば……………一六九

* 吳圭原について	一七三
崔 ^{チュエ} 華 ^{フヤ} 國 ^{グク}	
美しき仇	一七八
喧嘩酒	一八二
うちの国の若者	一八四
作品考	一八六
* 崔華國について	一八九
あとがき	一九二
収録詩集一覧	一九六

韓國現代詩選

姜^{カン}

恩^{ウン}

喬^{ギョ}

林

一本の木が揺れる

一本の木が揺れると

二本めの木も揺れる

二本めの木が揺れると

三本めの木も揺れる

このように このように

ひとつの木の夢は

ふたつめの木の夢

ふたつめの木の夢は

みつつめの木の夢

一本の木がかぶりを振る

横で

二本めの木もかぶりを振る

横で

三本めの木もかぶりを振る

誰もいない

誰もいないのに

木々たちは揺れて

かぶりを振る

このように このように

いっしょに

眼

見えたの

窓の外はどしゃぶりで

さんざか雨が降っているのに

雨のともだちの風までが

いっしょにあばれまくっているのに

変だわ

おまえの眼の奥では

牛乳いろの月がぼっかり浮び